



2025 年 6 月 16 日

各 位

会社名 株式会社クラシコム
代表者名 代表取締役社長 青木 耕平
(コード番号：7110 東証グロース市場)
問合せ先 取締役 CFO 山口 揚平
(TEL 042-577-0486)

(訂正) 「2025 年 7 月期 第 3 四半期決算補足説明資料」の一部訂正に関するお知らせ

当社は、2025 年 6 月 13 日に公表いたしました「2025 年 7 月期 第 3 四半期決算補足説明資料」の一部に訂正すべき事項がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 訂正理由

「2025 年 7 月期 第 3 四半期決算補足説明資料」P15 に掲載のグラフに訂正すべき事項があることが判明したため、訂正するものであります。

2. 訂正内容

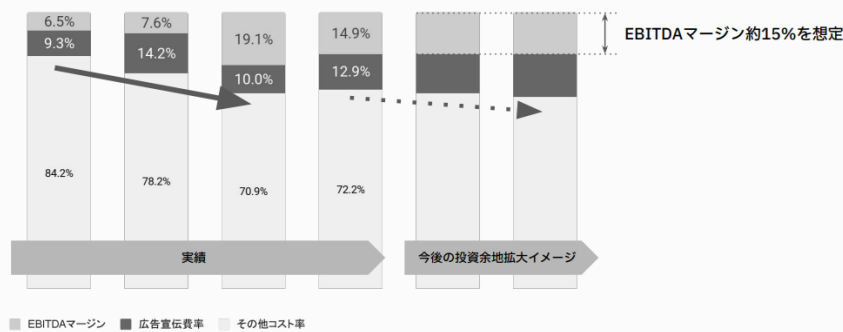
訂正箇所については赤枠で囲んで表示しております。

(訂正前)

連結 コスト構造の改善によるマーケティング投資余地の拡大

前4Qから当2Qにかけて売上高が大きく伸びたことでコスト構造の改善が進み、当3QもEBITDAマージン15%程度を達成
原価率は多少の季節性はあるが、若干の改善傾向が続く。人件費を含むその他の固定費も対売上比率では減少傾向の見通し
コスト構造の改善が進むことで、EBIDAマージンを維持した場合でもマーケティング投資などへの投資余地は更に増える

▶ EBITDAマージン、広告宣伝費、その他コストの売上高比率推移

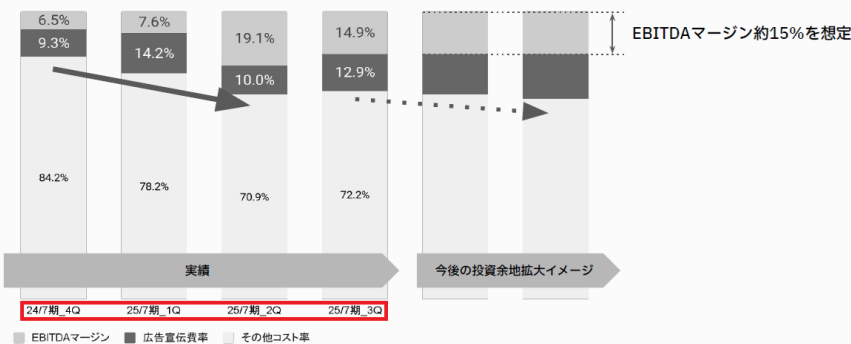


(訂正後)

連結 コスト構造の改善によるマーケティング投資余地の拡大

前4Qから当2Qにかけて売上高が大きく伸びたことでコスト構造の改善が進み、当3QもEBITDAマージン15%程度を達成
原価率は多少の季節性はあるが、若干の改善傾向が続く。人件費を含むその他の固定費も対売上比率では減少傾向の見通し
コスト構造の改善が進むことで、EBIDAマージンを維持した場合でもマーケティング投資などへの投資余地は更に増える

▶ EBITDAマージン、広告宣伝費、その他コストの売上高比率推移



以 上